

生物多様性を守る NEXCOの地域性苗木



東日本・中日本・西日本高速道路株式会社（NEXCO3社）は、自然環境の豊かな地域等における生物多様性を保全することを目的に、高速道路建設予定地周辺に自生している樹木の種子から育てた苗木を、その地域の高速道路に植栽しています。

この苗木は、その地域の固有の遺伝子情報を持っており、「地域性苗木」と名付け、当センターで育成しています。

地域性苗木の特長

地域性苗木は、地域に自生している樹木の種子から育てた苗木です。

市場に流通していない樹種も生産することが可能で、移入種による遺伝子のかく乱を防ぐなど、地域の生態系・種・遺伝子の3つのレベルの生物多様性に貢献するものです。

また、地域の方々と一緒に樹木の種子を採取したり、苗木を植え付けることにより、地域との連携や地域の自然を守るといった環境教育にも役立つものです。

平成8年に、中央道裏高尾地区に植え付けて以来、今までに約200種、75万本の苗木が使われています。

主な生産樹種

● 常緑広葉樹

アセビ	アラカシ	イズセンリョウ
クロガネモチ	サカキ	シラカシ
スダジイ	ヒサカキ	ヤマツツジ

● 落葉広葉樹

イヌシデ	ウツギ	ウメモドキ
ウリカエデ	エノキ	エゴノキ
ガクウツギ	ガマズミ	キブシ
キリ	コアカソ	コアジサイ
コゴメウツギ	コナラ	ゴンズイ
タニウツギ	タマアジサイ	ニシキウツギ
ノリウツギ	ヒメコウゾ	マルバウツギ
ミツバツツジ	ムラサキシキブ	ヤブムラサキ
ヤマグワ	ヤマザクラ	リョウブ

赤文字で示す樹種は、公共用緑化樹木として市場に流通していない樹種

地域性苗木の育成方法

高速道路建設予定地

建設工事（地域性苗木植栽）

約10年後の樹林復元状況



地域性苗木は、地域に自生している樹木の種子から育てた苗木です
育てた苗木は、2～3年で採種した地域の道路等の緑化に使用します



採種

播種

ユニット植付

育成・養生

育成1年目

育成2年目

育成3年目

地域性苗木の種別

- ①ポット苗は、盛土のり面植栽用として、直径12cmのビニールポットで育成した苗木です。
- ②ユニット苗は、主に切土のり面植栽用として、NEXCO 3社が特許を保有する座布団状の袋（ユニット袋）で育成した苗木です。袋の底部は不織布で作られ、根が外に伸長できるので、植え穴を掘らずに釘等で固定するだけで、植え付けることができます。

①ポット苗



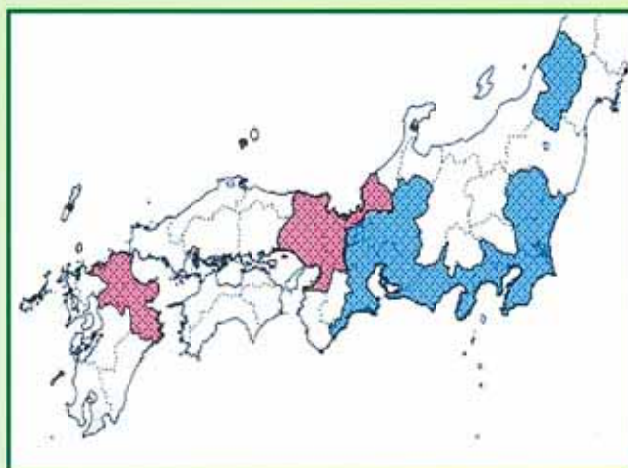
②ユニット苗



使用実績と予定

主な道路の使用実績（平成21年度まで）

地域	道路名	使用本数(千本)
東北	山形道	2
関東	北関東道	84
	中央道	34
	圏央道	170
	横浜横須賀道路	10
	館山道	40
中部	新東名	294
	東海北陸道	9
	伊勢道	3
	紀勢道	2
近畿	新名神	106
計		754



- 使用した都県
- 今後使用予定の府県

地域に密着した活動

種子の採取・植樹等の協働作業

種子の採取を地域の方々と一緒に
行うことにより、地域の自然の大切
さを学べます。



種子から育てた苗を地域の方々と一緒に
植樹することにより、道路や地域の
自然への愛着につながります。

土木学会環境賞受賞

高速道路ののり面緑化に、地域に自生する樹木を使用して生物多様性の保全を
図る地域性苗木システムを開発し、適用した点が高く評価され、平成21年度土木
学会環境賞を受賞（平成22年5月）しました。

地域性苗木を用いた緑化は、地域の生態系を守り、道路と周辺環境
との調和が図られる技術です。地域の方々と一緒に種子を採取すること
により、道路と自然環境の共存について地域ぐるみで考えるきっかけに
もなり、子供たちの環境教育としても素晴らしいものになるでしょう。

(推薦して頂いた亀山章東京農工大学名誉教授の話)

株式
会社

高速道路総合技術研究所 緑化技術センター

〒520-3121

滋賀県湖南市西寺1-1-1

TEL:0748-77-2124

FAX:0748-77-4019

<http://www.ri-nexco.co.jp/>